

ASEAN+3文化大臣会合における下村文部科学大臣の発言

議長，ありがとうございます。

(はじめに)

各国大臣，御列席の皆様，

今回，ASEAN+3文化大臣会合に出席し，これらの国々との文化協力について発言できるのは，私にとって非常に光栄です。この会合を主催し温かいおもてなしを頂いたホアン・トゥアン・アイン・ベトナム文化スポーツ観光大臣及び関係者に対して心からお礼を申し上げます。ここベトナムの古都フエにおいてトゥアン大臣ほか何名かの文化大臣に再会でき，またその他の各国文化大臣には初めてお会いできて大変喜ばしく思います。

昨年は日・ASEAN交流40周年でした。ASEAN10か国から演奏家・音楽家を招いて盛大に行った日・ASEAN音楽祭など様々な交流行事が行われました。12月には東京で日・ASEAN特別首脳会議を開催。文化芸術交流の促進や語学学習等を含む教育における協力強化，多様な文化と伝統の保護をうたった，日・ASEAN友好協力に関するビジョン・ステートメントも採択されました。

40周年を記念した一連の行事はASEAN各国の協力の下，実りある形で終わりました。しかし，これで十分ではありません。私が今回日本の文部科学大臣として初めてこの会合に出席したのも，昨年の日・ASEAN間の合意を受け，文化分野でのASEANとの協力について具体的な提案をし，今後の協力の基盤を作るためです。2020年に向けた具体的な協力について明日予定されている日・ASEAN会合で議論したいと思います。

次に東アジア文化都市構想について一言述べます。

私は，昨年韓国光州市で行われた日中韓文化大臣会合に参加しました。その会合で，中国の蔡大臣—ここにいらっしゃいますが—と，韓国の劉大臣との間で重要な意見の一致をみました。それは都市レベルを含めあらゆるレベルで文化交流を一層促進すること，それによって国家関係に肯定的な影響を及ぼすことが重要であるということです。

実際にこの会合の場で，日中韓の枠組みでの2014年の東アジア文化都市を決定いたしました。今年の2月から3月にかけて，中国・泉州市，日本・横浜市，韓国・光州市でオープニング式典が行われ，それぞれ都市レベルの交流があり，どの行事も非常に盛況だったと聞いています。

都市レベル，草の根レベルでの交流を進め，相互理解を深めていくことで日中韓の友好関係を支えていくことができると思います。

この東アジア文化都市の取組は、2015年以降も継続していく予定です。ASEAN域内でも、今朝のオープニングで発表されたフエ市のように、既に2010年から文化都市が選定され、様々な文化事業が行われていると聞いています。将来的には、日中韓の文化都市とASEAN文化都市との間で連携していくことも十分可能ではないかと思えます。私は、来年日本で実務レベルのASEAN+3の文化協力ネットワーク会合（APTCCN）を開催したいと考えていますが、こうした場でこの文化都市についても議論できればと思います。

各国大臣，御列席の皆様

2020年は東京オリンピック・パラリンピックの開催の年です。私は、これをスポーツの祭典であると同時に文化芸術の祭典となるよう、オリンピック・パラリンピックを変えるきっかけにしていきたいと思えます。日本の文化力を高めるための目標年とすべく、文化芸術の振興策を国の政策の根幹に据え、計画的に実行していくことが重要だと考えています。このため、つい先月末に、2020年を目指して「文化芸術立国中期プラン」を策定いたしました。このプランは、2020年までの間を文化政策の振興のための「計画的強化期間」と位置付け、国の文化芸術振興施策を飛躍的に充実させていくものです。

2020年には東京に世界中の人々が集まります。スポーツ競技だけではなく、アスリートと同じ数のアーティストにも訪問していただけるような魅力的な文化イベントを日本中で開催したいと考えています。そして、その準備の一環として、2017年にはスポーツ・文化ダボス会議を日本で開催し、著名なアスリート、芸術家、学識者を交えた討論会や様々な文化芸術イベントを開催できればと考えています。2020年及びそれに向けての様々な行事にASEAN及び中国、韓国の皆様にも是非参加していただきたいと思えます。

日本の文化を通じて世界の人々と対話と交流を行う。それにより新たな価値を創出する。その新たな価値を世界へ発信する機会を提供していきたいと考えています。私は、2020年に日本は、文化芸術に支えられた「成熟社会の新モデル」を世界に提示できるのではないかと考えます。

御清聴ありがとうございました。